

## 2025 年度若者の巡礼について

今回、イタリアで行われた聖年の若者の巡礼に参加させていただき、多くの学びを得ることができました。

私が今回参加した動機は、聖ドミニコ学園幼稚園の中で神様の教えに沿った教育を行うために、学びを深めたいと思い参加を希望しました。

14 日間のイタリアでの巡礼で、特に印象に残ったことがいくつかあります。まず、1 つ目は聖ドミニコの存在の大きさです。カトリックの割合が少ない日本では聖ドミニコという人物をよく知る人は少なく、学園の名前として認知されている状況ですが、イタリアでは様々な場所に聖ドミニコが描かれていました。例えば、バチカン市国のサンピエトロ大聖堂では祭壇のすぐ近くに聖ドミニコが掲げられており、カトリックにおいて大きな存在であることを実感し、聖ドミニコのマークを掲げて過ごしていることをとても誇らしく感じました。

2 つめは、数々の美術品、遺跡の素晴らしさです。サンピエトロ大聖堂のミケランジェロの作品「ピエタ」、サンドミニコ修道院にあるフラアンジェリコの受胎告知、サンジョバンニインラテラノ大聖堂の建築、聖ドミニコが眠る祭壇を見た際には、心が震えるほどの感動がありました。特にミケランジェロの作品は惹きつけられるものがあり、「ピエタ」ではまさに十字架から降ろされた瞬間を目撃しているかのような精巧さ、訪れた人全てが、思わずじっと見つめてしまうような神秘性のある作品に驚きました。聖ドミニコの祭壇では、聖ドミニコの数々の奇跡が細やかに描かれ、見る人が聖ドミニコがどのような人物であったか、どのように活動したかを知り、深めることができる素晴らしいものでした。サントサビーナの聖堂では、現存する最古の十字架の図像や聖ドミニコの様々な逸話に触れ、聖ドミニコという存在がより自分のそばにいるような親しみを持ちました。

3 つ目は、出会った人達との交流です。この巡礼の中で、様々な国の人と出会いました。私たちはそれぞれ異なる文化、言語を持って過ごしています。しかし、神様を思い、祈る気持ちは同じものを持っていました。教皇ミサでは、何万人という若者が静かに祈る様子を見て、多様な文化の中、心を一つにできることの喜びを感じました。宿泊施設で行われた交流会では、ベナン、ノルウェー、ブラジル、日本のチームが、それぞれ宗教の枠を超えて、自分たちの文化や食生活、価値観の共有をすることができ、大切な友人も沢山作ることができました。今も、時折外国の友人達とメッセージを送りあっています。神様が繋いで下さったご縁を大切に育んでいきたいと思います。

今回の旅で多くのミサに出席をしました。ミサの度に、私は幼稚園の園児一人一人の子ども達の顔を思い出しながら、彼らが平和の中で、愛し、愛されて生きられるように、とお祈りをしていました。今回知り合った友人達の中には、戦争が続くウクライナから移住してきた人もいます。また、イタリアに行くまでにウクライナ付近の上空を通り、自分が今まで何となく見てきた戦争のニュースが、他人事ではなく実際に自分の真下で起こっている出来事だと実感し、急に怖くなりました。この巡礼では様々な国の人々が心を一つに

祈りを捧げていました。それがどんなに幸せなことか、未来を生きていく子ども達にとって、これが当たり前である世界になって欲しいと思いました。教皇様も、ミサの中で私たちに「あなた方は世の光です」と仰ってくださいました。子ども達は世の光、宝物のような存在です。教皇様のお話を聞いて、光のような子ども達がどうか平和に、愛の中で過ごせるように、保育者として尽力していくことを、改めて決意しました。

そして、ローマやシエナで沢山のシスター、神父様にご尽力いただき、素晴らしいお話を沢山聞かせていただきました。子ども達にも、聖ドミニコや聖カタリナ、ローマの歴史など、学んだことを伝えたいと思います。今回はこのような貴重な機会をくださり、ありがとうございました。